

※※印：2012年 4月改訂(第7版、社名変更等に伴う改訂)  
 ※印：2011年12月改訂

日本標準商品分類番号	
872344	872355

貯 法：室温保存  
 使用期限：外装に表示の使用期限内に使用すること。  
 取扱い上の注意：「取扱い上の注意」の項参照

	錠250mg	錠330mg
承認番号	21700AMZ00337000	21700AMZ00338000
薬価収載	2005年7月	2005年7月
販売開始	2005年7月	2005年7月

制酸・緩下剤

# カイマックス®錠250mg カイマックス®錠330mg

KAIMAX  
 酸化マグネシウム錠

### 【組成・性状】

	カイマックス錠250mg	カイマックス錠330mg	
組成	1錠中： 酸化マグネシウム ……………250mg  〈添加物〉 結晶セルロース、酸化チタン、ステアリン酸カルシウム、デンプングリコール酸ナトリウム、ヒプロメロース、マクロゴール6000	1錠中： 酸化マグネシウム ……………330mg	
性状	白色のフィルムコーティング錠		
識別コード(PTP)	054	055	
外形(サイズ)	表(直径mm)	8.2	9.2
	裏(重量mg)	317	418
	断面(厚さmm)	4.2	4.5

### 【効能・効果】

下記疾患における制酸作用と症状の改善  
 胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、  
 上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、  
 胃酸過多症を含む)

便秘症  
 尿路尿酸カルシウム結石の発生予防

### 【用法・用量】

制酸剤として使用する場合：  
 酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.5～1.0gを数回に分  
 割経口投与する。  
 緩下剤として使用する場合：  
 酸化マグネシウムとして、通常成人1日2gを食前又は食後の  
 3回に分割経口投与するか、又は就寝前に1回投与する。  
 尿路尿酸カルシウム結石の発生予防に使用する場合：  
 酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.2～0.6gを多量の  
 水とともに経口投与する。  
 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
  - 腎障害のある患者〔高マグネシウム血症を起こすおそれがある〕(「重大な副作用」の項参照)
  - 心機能障害のある患者〔徐脈を起こし、症状が悪化するおそれがある〕
  - 下痢のある患者〔下痢を悪化させるおそれがある〕
  - 高マグネシウム血症の患者〔高マグネシウム血症の症状を増悪させるおそれがある〕
- 重要な基本的注意  
 本剤の投与により、高マグネシウム血症があらわれることがあるので、長期投与する場合には定期的に血清マグネシウム濃度を測定するなど特に注意すること。(「重大な副作用」の項参照)

### 3 相互作用

併用注意(併用に注意すること)  
 本剤は吸着作用、制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 テトラサイクリン ミノサイクリン 等 ニューキノロン系抗菌剤 シプロフロキサシン トスフロキサシン 等 ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 エチドロン酸二ナトリウム リセドロン酸ナトリウム 等	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるため、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。
セフジニル ミコフェノール酸モフェル デラビルジン ザルシタピン ベニシラミン		機序不明
アジスロマイシン セレコキシブ ロスバスタチン ラベプラゾール ガバペンチン	これらの薬剤の血中濃度が低下するおそれがある。	
ジギタリス製剤 ジゴキシン ジギトキシン 等 鉄剤 フェキソフェナジン	これらの薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので、服用間隔をあけるなど注意すること。	マグネシウムの吸着作用又は消化管内・体液のpH上昇によると考えられる。
ポリカルボフィルカルシウム	ポリカルボフィルカルシウムの作用が減弱するおそれがある。	ポリカルボフィルカルシウムは酸性条件下でカルシウムが脱離して薬効を発揮するが、本剤の胃内pH上昇作用によりカルシウムの脱離が抑制される。
高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤 ポリスチレンスルホン酸カルシウム ポリスチレンスルホン酸ナトリウム	これらの薬剤の効果が減弱するおそれがある。また、併用によりアルカロースがあらわれたとの報告がある。	マグネシウムがこれらの薬剤の陽イオンと交換するためと考えられる。



薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
活性型ビタミンD <sub>3</sub> 製剤 アルファカルシドール カルシトリオール	高マグネシウム血症を起こすおそれがある。	マグネシウムの消化管吸収及び腎尿細管からの再吸収が促進するためと考えられる。
大量の牛乳 カルシウム製剤	milk-alkali syndrome (高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状が現れた場合には投与を中止すること。	機序：代謝性アルカローシスが持続することにより、尿管でのカルシウム再吸収が増大する。 危険因子：高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機能障害のある患者。
ミソprostool	下痢が発現しやすくなる。	ミソprostoolは小腸の蠕動運動を亢進させ、小腸からの水・Naの吸収を阻害し、下痢を生じさせる。本剤には緩下作用があるので、両者の併用で下痢が発現しやすくなる。

#### 4 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

##### (1) 重大な副作用 (頻度不明)

**高マグネシウム血症** 本剤の投与により、高マグネシウム血症があらわれ、呼吸抑制、意識障害、不整脈、心停止に至ることがある。悪心・嘔吐、口渴、血圧低下、徐脈、皮膚潮紅、筋力低下、傾眠等の症状の発現に注意するとともに、血清マグネシウム濃度の測定を行うなど十分な観察を行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(処置法は「過量投与」の項参照)

##### (2) その他の副作用

	頻度不明
消化器	下痢等
電解質 <sup>注)</sup>	血清マグネシウム値の上昇

注) 観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

#### 5 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

#### 6 過量投与

(1) 徴候・症状：血清マグネシウム濃度が高値になるにつれ、深部腱反射の消失、呼吸抑制、意識障害、房室ブロックや伝導障害等の不整脈、心停止等があらわれることがある。(初期症状は「重大な副作用」の項参照)

(2) 処置：大量服用後の間もない場合には、催吐並びに胃洗浄を行う。中毒症状があらわれた場合には、心電図並びに血清マグネシウム濃度の測定等により患者の状態を十分に観察し、症状に応じて適切な処置を行うこと。(治療にはグルコン酸カルシウム静注が有効であるとの報告がある)

なお、マグネシウムを除去するために血液透析が有効である。

#### 7 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

#### 8 その他の注意

長期・大量投与により胃・腸管内に結石を形成し、腸閉塞を起こしたとの報告がある。

#### 【薬効薬理】<sup>1)</sup>

酸化マグネシウムは胃内における制酸作用と腸内における緩下作用を持つ。

制酸作用の発現に際して、二酸化炭素を発生しないため刺激のない制酸剤として採用される。酸化マグネシウム1gは0.1mol/L塩酸の約500mLを中和できる。水に不溶性なため、炭酸水素ナトリウムと比較すると制酸性は遅効性であり、作用時間も長い。

また、本剤は腸内では難吸収性の重炭酸塩又は炭酸塩となり、浸透圧維持のため腸壁から水分を奪い腸管内容物を軟化することにより緩下作用を現す。

#### 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：酸化マグネシウム (Magnesium oxide)

分子式：MgO

分子量：40.30

性状：酸化マグネシウムは白色の粉末又は粒で、においはない。水、エタノール(95)又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。希塩酸に溶ける。空気中で湿気及び二酸化炭素を吸収する。

#### 【取扱い上の注意】

1 本剤は湿気に影響されるので、開封後はできるだけ速やかにご使用下さい。また、開封後は湿気を避けて保管して下さい。

2 安定性試験結果の概要<sup>2)</sup>

加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、カイマックス錠250mg及びカイマックス錠330mgは通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

#### 【包装】

※●カイマックス錠250mg  
PTP包装：100錠(10錠×10)

●カイマックス錠330mg  
PTP包装：100錠(10錠×10)  
バラ包装：500錠

#### 【主要文献】

1) 第十六改正日本薬局方解説書

2) テバ製薬㈱社内資料(安定性試験)

#### ※※【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。

テバ製薬株式会社 DIセンター

〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目24番11号

TEL 0120-923-093 FAX 052-459-2853

受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日を除く)

※※製造販売元

テバ製薬株式会社

名古屋市中村区太閤一丁目24番11号